

萌丘東幼稚園
萌丘東保育園 ほいくだより

2024



ひがしっ子 4月



園長コラム

今年度も新しい仲間を迎え、スタート切れることを職員一同大変うれしく思っております。園運営にあたって、「心のこもった園づくり～こどもの成長を保護者・保育者が共に支える園～」をスローガンに、保護者の皆様のご理解とご協力のもと、こども達の心と体を支えていく所存です。

現在における幼稚園や保育園の役割として、こども達の安全を確保しながら発達を支援していくという幼児教育・養護としての基本的な役割に合わせて、保護者の就労支援や子育てにおけるストレスの緩和などの役割。また、こども家庭庁の設立を代表にした「社会でこどもを育てていく」という考えのもと、行政や関係機関との連携における橋渡し役としての役割もあるなど、幼稚園や保育園に求められている社会的な役割は多岐にわたってきております。合わせて、社会的に相応しい勤務状況といった一般企業では当たり前とされてきたことも、今日では厳しく見られており、毎年どこかしらの園がニュース等で取り上げられているところです。

スローガンはこういった幼稚園や保育園の現状をクリアにしていく基本的な姿勢として掲げさせていただいています。至らない点はあるかと思いますが、東園の大切な3つの柱である、こども・保護者・保育者にとってより良い園となるように励んでまいりますのでご理解とご協力を願いたします。

さて、新年度ということで、東園の保育のおさらいをしておこうと思います。活動全体を通して大切にしている事は、自然の中でできるだけ過ごそうということ。もう一つは、自分でやってみようとする主体性を育むための「自立」と「遊び」を沢山取り入れることです。自然の中で心と体の記憶に残る体験を沢山して、小学校に向けてたくましく育って欲しいと思っています。

0～3歳になる頃までは「保育」というより「育児」と言ったほうが理解しやすいかもしれません。こどもの生活習慣の自立を促しながら、それらをしてくれる大人との密なかかわりをとおして、今後の育ちの基礎となる他者への愛着や信頼する力を獲得していきます。家庭の育児機能を丁寧に園内で再現するようなやり方です。この時間が如何に大切かを私たちは痛感しておりますので、両親のどちらかがお休みの日には家庭でのお子さんとの密な時間をお願いしているところです。

3～5歳頃になってくると遊びの質が分かれてきます。自分の好きな遊びだけをする「自由」な遊びから、友達とも遊びたくなり、楽しむためには相手とどう「調和」すればいいのかを考えて遊ぶことが増えてきます。コミュニティの中でどう立ち振る舞っていくのが、自分にとっても相手にとっても良いのかを、遊びを通して学んでいくとも言えます。アクセルとブレーキのようなもので、この加減を知っていくことはこども達の大きな財産になっていきます。集団生活の持ち味が十分に発揮されだすのかこの時期からとなります。

こういった発達の流れがあり、昔ははじめは家庭で育て、3歳から幼稚園がスタートするという流れができていました。現在は多様なライフスタイルが認められる時代となり、子育ての在り方もそれと同時変化してきました。そのこと自体は私自身はとても良いことであると感じていると同時に、こどもの発達にとって大切なことは変化していないことを把握しておくことは大切ではないかと思っております。

0～2歳児クラスの1か月

新しい生活

新しいお友達も加わって泣き声も笑い声も多いのが4月の特徴です。慣れない場所やクラスということもあり、気分転換も大切な時期。室内と戸外をバランスよく遊んでました。ここからだんだんと大きくなっていく姿が今から楽しみです。
東園での生活のスタートは、人との触れ合い、信頼関係の醸成から始まります。こども・保護者・保育者がお互いに親しくなることからすべてが始まります。



3～5歳児クラスの1か月

新しい生活

新しいクラスが始まりました。これからどんな出来事がこども達を待ち受けているのでしょうか。ひとつ大きなクラスになったことを純粋に喜んでいることがこども達との会話の中からも感じられます。

今年は桜の開花も遅かったということもあり、園庭で花見をしながらお昼ご飯を食べたり、特養の枝垂れ桜を見に行ったりと、桜の中で遊ぶことを満喫できたようです。



